**20220706**

**お知らせ**

**第9回バイオセーフティシンポジウムの開催について**

**主催：日本バイオセーフティ学会**

**バイオセーフティシンポジウムテーマ**

《臨床検査（微生物検査）で遭遇する可能性のある取り扱いに注意すべきアフターコロナの稀少感染症病原体》

**開　催　主　旨**

日ごろより本会の活動にご理解ご支援頂き感謝申し上げます。

臨床検査センターの微生物検査室（BSL2検査室）において稀にBSL3病原体が分離同定される場合があります。これは病院の微生物検査室でも同じと思われます。BSL3病原体が同定されつつあるときにBSL3検査室の有無に合わせそれぞれどのような対応をすべきか、同定された場合にBSL2で取り扱いを行った検査担当者のフォローをどのように行うか、一般臨床検査におけるこれら患者の検体採取・検査時にどのようなことに注意すべきかなど、バイオセーフティ上重要な課題となっています。また、血液、尿、便などを用いた臨床検査は一般の検査室で行われることから、SARS-CoV-2感染者の試料を取り扱うとき同様、材料別にどう対処するか問題となります。

稀少感染症病原体である、鼻疽・類鼻疽菌、ブルセラ属菌およびコクシジオイデス イミティスは国内において過去、現在で分離同定されており、今後も輸入感染症として遭遇する可能性があること、超多剤耐性結核菌は検査で外国人から検出されたことがあり感染拡大が危惧されていること、さらにこれらはバイオテロリズムの警戒が必要とも言われていることから注意すべき重要な病原体です。また、国内では未発生ですが、ウイルス分離同定のルーチン検査で使用するVero細胞で増え、呼吸器症状とともに脳炎を引き起こすニパウイルスも検出される可能性があり、バイオテロリズムに使われる可能性のあるBSL3病原体として留意する必要があります。

今回は臨床検査とバイオセーフティに関連したテーマとして、臨床検査（微生物検査）で遭遇する可能性のある取り扱いに注意すべきアフターコロナの稀少感染症病原体として類鼻疽菌、ブルセラ属菌およびコクシジオイデス イミティスを取り上げ稀少感染症病原体への対応を考えていきます。また、新型コロナウイルス診断について、検査の現場で経験した情報についても紹介いたします。これらの病原体はBSL3ですので、BSL3施設を計画する際のハード面（設計）における注意点についてあわせて紹介します。

**開　催　内　容**

1.開催日時：2022年９月２1日（水）13：00~17：30

2.開催場所：（一社）予防衛生協会（つくば）

3.開催方式：対面及びWebリモート方式（Zoomシステム）

4.**プログラム**

13:00～13:05　　開会挨拶　　北林厚生理事長

13:05～13:10　　シンポジウムの主旨説明　　　　　杉山和良　　学術企画委委員

13:10～13:50　 鼻疽・類鼻疽

　　　 　 　堀野敦子　　国立感染症研究所　細菌第2部

14:00～14:40　 ブルセラ症とバイオセーフティ

　　　　　　　　　　　今岡浩一　　国立感染症研究所　獣医科学部

14:50～15:30 Coccidioides immitis

渡辺　哲　　千葉大学真菌医学研究センター

休　憩（15:30~15:45）

15:45～16:10 現場から（1）ブルセラ属菌検出時の対応事例紹介

　　　　　　　　　　　　遠藤詳大　　LSIメディエンス

16:10～16:30　 現場から（2）検査センターでの類鼻疽検出時の対応についての報告

～バイオセーフティの観点から～

古舘信洋　　BML

16:40～17:10　　実験室バイオセーフティシステムの概要

木場裕介　　日立GLS

17:10～17:25　　総合討論

17:25～17:30　　閉会挨拶

5.参加費

　会員：3,000円　　非会員：8,000円（参考：会員年会費　10,000円）

6.参加申込

事前に所定の**参加申込書**を用い申込願います**(学会ウェブ「お知らせ」に掲載いたします)**。

**申込先：**一般社団法人予防衛生協会内　第9回シンポジウム事務局　　柴田宏昭　小野孝浩

　　　　Mail：jbsa-symp009@primate.or.jp　 TEL：029-828-6888　　FAX：029-828-6891

7.その他

日本バイオセーフティ学会「実験室バイオセーフティガイドライン（第2版）」の販売

　　販売価格：会員：2,500円/冊　　非会員：3,500/冊

　ご希望の方は、第9回シンポジウム事務局までご連絡ください。

**会場案内図**（予防衛生協会）　<https://www.primate.or.jp/access>